第71回池田五月山さくらまつり「第43回俳句大会」

入賞者

池田市長賞

まだ風に色を残して桜散る

神戸市 ^た玉手 ^のり子

美しく咲き誇った桜もやがて終焉を迎える。それでも尚淡い桜の色を見せてくれる。花が吹雪くとき風は薄紅を孕んで散らしていくのだ。そんな風情が詩的に表現されている。

山田 佳乃 講評

池田五月山さくらまつり実行委員会実行委員長賞

夜桜に校歌朗朗宴果つ

大阪市 ^こぼやし ^まち子 ^こ真千子

同窓会の夜の花見なのであろう。宴酣となり、一同肩を組んで懐かしい校歌を声高らかに合唱した。青春の思い出に浸った感動が伝わってくる。

石川 多歌司 講評

池田商工会議所会頭賞

花の雲今日も都は人いきれ

尼崎市 ^ささき ^き木 ^{ひろゆき}啓之

花の雲は、桜が咲き満ちて雲のように見えること。この句は、「都」といっているのが、京都か奈良であろう。見渡す限り桜が咲き「人いきれ」で大勢の人が徘徊している様子が伝わってくる作品。

南 杏子 講評

池田市観光協会会長賞

夜ざくらや母の遺品に母子手帳

奈良市 和田^{わだ} 富子^{とみこ}

桜の美しい夜、この世から去った母の遺品の中に母子手帳を見つけた作者。桜は人生の象徴のような花。生前の母とのさまざまな思い出が次から次へと溢れ出します。

和田 華凜 講評

(一財) いけだ市民文化振興財団会長賞

桜咲く鞆一つの新転地

池田市 つじ^{つじ} 美知子^{みちこ}

※特選句としては選ばれなかったが、3名の選者から入選に選考され、今回受賞句として推薦したい。